



公益社団法人 日本婦人科腫瘍学会 (Japan Society of Gynecologic Oncology)

設立: 1975 年 8 月 日本医学会加盟年: 2021 年 代表者: 三上幹男

日本婦人科腫瘍学会 (JSGO) におけるダイバーシティ&インクルージョン (D&I) 推進の取り組み

1. 会員、代議員、理事の現状

JSGO の総会員数は 4,165 名、男性 2,466 名、女性 1,699 名である (2023 年 9 月 6 日現在)。本会は、産婦人科学 (3,898 名: 93.6%)、病理学 (102 名: 2.4%)、放射線診断・治療学 (92 名: 2.2%)、腫瘍内科学 (24 名: 0.6%) を専門とする医師など多様な領域の会員で構成されている。本会の会員数の 93% を占める産婦人科医師の年齢別男女比は、50 歳代以上では女性医師に比して男性医師が多い傾向にあるものの、40 歳代は男女比は同等であり、20 歳代、30 歳代においては女性医師が多くなっている (図 1)。

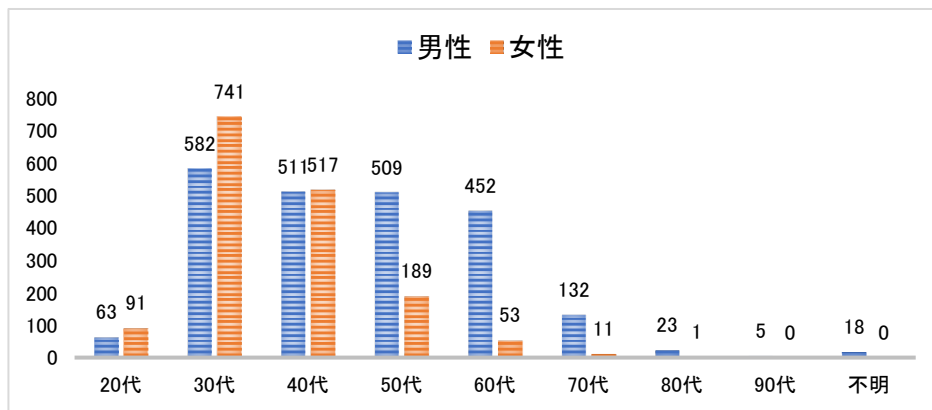


図 1. 産婦人科の男女別会員数 (年齢別)

病理医の年齢分布では、50 歳代に会員数のピークがあり、男女比は同等であるが、60 歳代以上では漸減傾向にあり、女性医師が極めて少ない。一方、30 歳代、40 歳代では男性会員に比して女性会員の方が多 (図 2)。

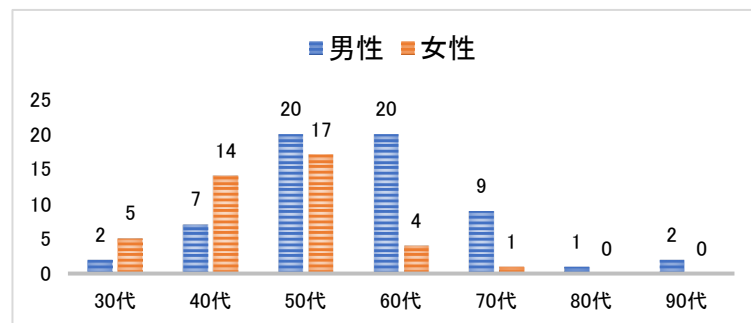


図 2. 病理医の男女別会員数 (年齢別)

放射線診断・治療医の年齢分布では40歳代で会員数のピークがある。各年代において、男性会員が多い(図3)。

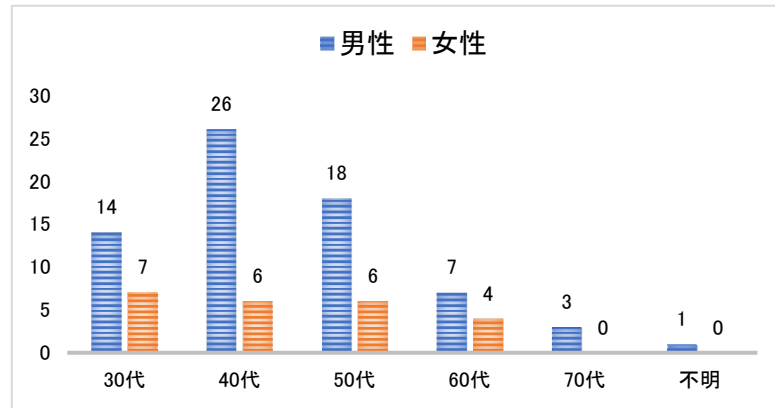


図3. 放射線診断・治療医の男女別会員数(年齢別)

代議員数は420名であり、男性355名(84.5%)、女性65名(15.5%)である。代議員は50歳代が最も多く、40歳代と60歳代は同程度である。いずれの年代においても、女性代議員に比して男性代議員が多い(図4)。

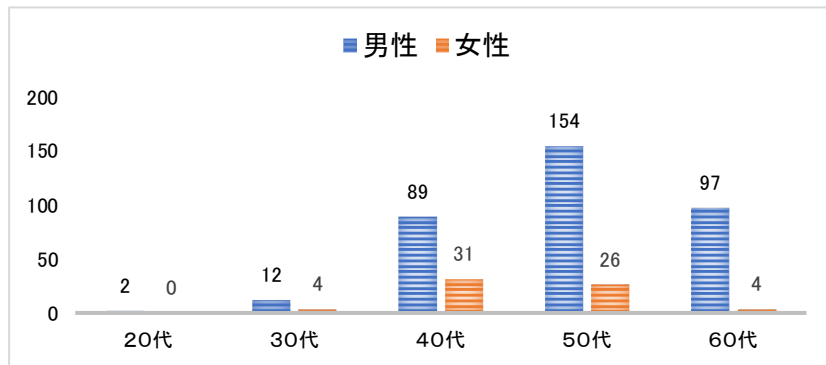


図4. 男女別代議員数(年齢別)

代議員における同世代の男女別会員数に対する比率では、20 歳代および 30 歳代で差は認められないが、40 歳代以上では男性が 2～3 倍比率が高い(図 5)。

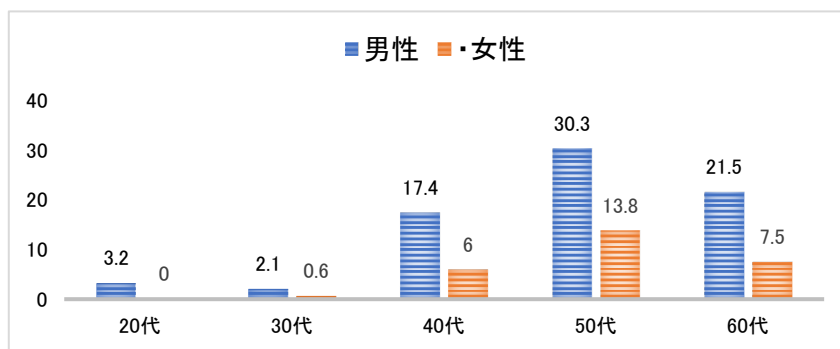


図 5. 代議員における同世代の男女別会員数に対する比率(年齢別)

理事は 50 名であり、男性は 44 名(88%)、女性は 6 名(12%)であった。男性医師の内訳は婦人科 38 名、病理 2 名、放射線 3 名、腫瘍内科 1 名、女性医師の内訳は婦人科 4 名、病理 1 名、腫瘍内科 1 名であった。

2. 本会の D&I 推進への取り組み

JSGO 会員の拡充を図る目的として「婦人科以外の会員増加に関するワーキンググループ」を設置した。日本婦人科病理学会および JSGO 修練施設(A)222 施設へのアンケート調査を行った。JSGO の持続可能な発展ならびに次世代を担う婦人科医と病理医・放射線診断医・放射線治療医・腫瘍内科医との連携を醸成していかなければならないと判断し、理事会に対して下記の 3 項目を提言した(2023 年 11 月 JSGO 理事会)。

- 1) 学術講演会プログラム委員会に病理医、放射線科診断・治療医、腫瘍内科医の参画。
- 2) 若手ワーキンググループに、30 代、40 代の病理医、放射線科治療・診断医、腫瘍内科医の参画。
- 3) 診療ガイドライン等作成への中堅の病理医、放射線科治療・診断医、腫瘍内科医の参画。

さらに、「多彩なキャリアを支援するワーキンググループ」を新たに設置(2023 年 11 月理事会で承認)し、女性医師の活躍促進(女性代議員・理事の増員に向けてのロールモデル策定)、多様な働き方を支援する制度の整備、妊娠・出産・子育てと仕事の両立支援などを検討、提言していく。なお、本ワーキンググループには産婦人科医以外に病理医および放射線科医も参画し、女性会員や 40 代の会員が中心となりワーキングメンバーが構成されている。

3. 若手支援

本会の30代、40代の会員は2,351名(56.4%)と会員全体の半数以上を占めており、今後、学会活動の施策のメリット、デメリットに影響を受けるのは、現在の執行部を構成する50代・60代の会員ではなく、30代・40代の会員である。今後、本会を主導する30代・40代の会員の意見を広く聞き取り、多様な視点をもって課題を抽出し、執行部にきちんと提言するため、「若手ワーキンググループ」を設置した。

30代・40代の会員の交流、意見の抽出、学会活動への登用の契機となる企画として、2024年1月27-28日に岩手県安比高原でのワークショップを開催した。グループディスカッションをメインとし、全国から25名の婦人科腫瘍専門医取得5年以内の若手医師を集め、専門医修練中や、現在の働き方の問題点などを議論し、専門医制度、働き方改革、学会の国際的な活動などについて、30代・40代の世代目線から本会への提言、要望をまとめた。その内容は第66回本会学術講演会で発表予定であり、今後、本会の施策として取り上げられていく。今後も同様の企画を継続し、常に若手医師の意見を反映する場を提供する予定である。

4. 婦人科腫瘍学に継続的に携わる医師を支援するための課題

2018年度以降にJSGOを退会した482名に対して無記名でのアンケート調査を行った。アンケート実施期間は、2023年5月1日～5月31日であり44名(9.1%)(男性:30名、女性:14名)から回答を得た。

JSGOの会員であった期間(年)は5-9年間が13名と最も多く(図6)、30歳代が6名(男性4名、女性2名)、40歳代6名(男性3名、女性3名)、60代女性1名であった(表1)。

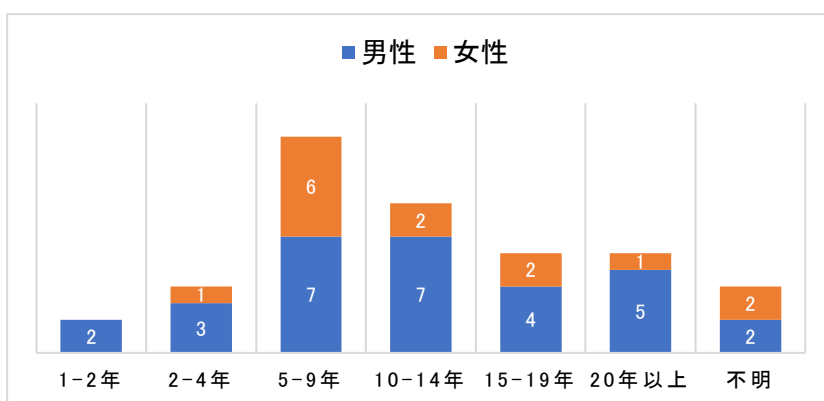


図6. 退会時のJSGO会員年数

表1. JSGO会員年数5-9年の退会年齢

	男性(名)	女性(名)
30歳代	4	2
40歳代	3	3
60歳代	0	1

退会時の年齢では、40歳代が14名(31.8%)と最も多く、医師として知識、技術ともに成熟しつつある時に退会を決断した会員が多かった(図7)。

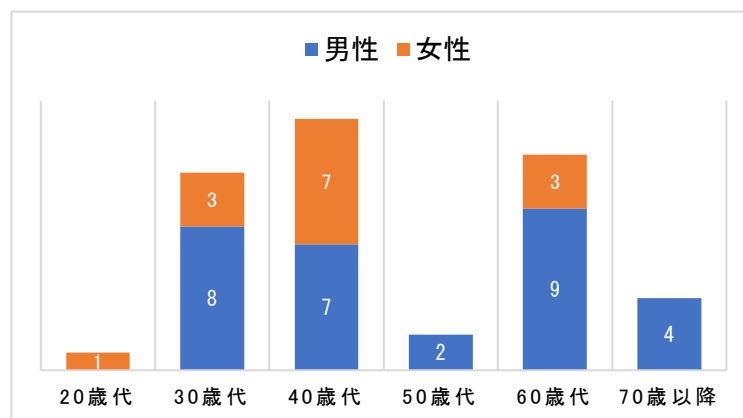


図7. 退会時の年齢

退会者の内訳は、婦人科腫瘍専門医が 5 名、婦人科腫瘍修練医が 4 名、専門医・修練医以外が 35 名であった。退会した婦人科腫瘍専門医 5 名は全て男性であり、退会時の年齢は 40 歳代が 1 名、60 歳代が 2 名、70 歳代以降は 2 名であった。40 歳代男性医師の退会理由は「生殖専門施設へ就職するため、専門医が不要である」との意見であった。

退会した婦人科腫瘍修練医は 4 名（男性 3 名、女性 1 名）であり、退会時の年齢は男性会員では 30 歳代 2 名、40 歳代 1 名、女性会員は 30 歳代 1 名であった。退会した理由として、3 名が専門医の取得が難しいと考え、退会している。内、女性 1 名は、家庭の事情のため専門医の取得が難しいと考え退会している。

専門医・修練医以外の 35 名（男性 22 名、女性 13 名）、退会時の年齢は男性会員では 30 歳代 6 名、40 歳代 5 名、50 歳代 2 名、60 歳代 7 名、70 歳以上 2 名、女性会員では 20 歳代 1 名、30 歳代 2 名、40 歳代 7 名、60 歳代 3 名であった。退会の理由として意見が多かったのが学術集会への参加が難しい(40%)、年会費等の経済的な理由(37.1%)、他学会で必要を満たすため(25.7%)、専門医への興味が無くなった(22.9%)などが挙げられた(図 8)。

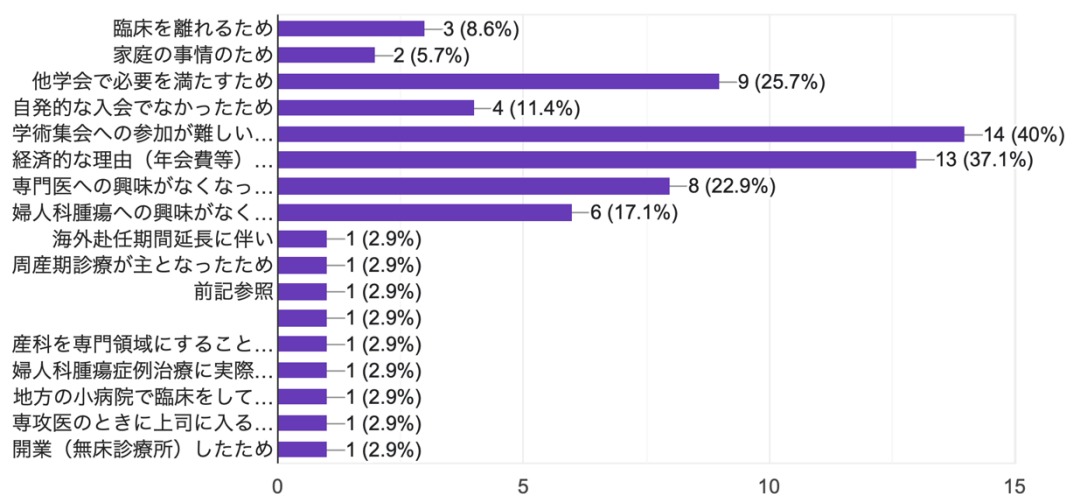


図 8. 退会の理由

上記のアンケート調査をもとに、本会を支える会員に対して発信する「本会の魅力」について、学会全体で多様な意見を取り入れて会員とともに本会を共創していかなければならない。本会の定款第 2 章第 3 条に示される「婦人科腫瘍の病理、診断、治療及び遺伝子情報等に関する研究等の事業を行うことにより、これらの進歩と発展を図り、国民の医療福祉に寄与すること」という目的を達するため、学術集会においては最新の診断・手術手技、薬物療法などに主眼が置かれる傾向にある。しかしながら、限られた学術集会会期ではあるものの、診断・治療に関する最新情報のみならず、婦人科がんサバイバーのフォローアップなど、婦人科腫瘍の医療・福祉に寄与する

俯瞰的な観点に基づく情報を発信・共有することにより、様々な状況で婦人科腫瘍の患者に向き合っている、多くの会員に本会の活動に関心をもって頂ける課題を選定していくことも今後の学術集会にとって重要な課題となる。さらに、JSGO 会員以外に対して、学術集会、WEB セミナー、JSGOE-academy などにより、最新の婦人科腫瘍に関する知見をアップデートできることが浸透すれば、入会あるいは再入会を考慮する可能性も生じる。